

研究ノート

『小町歌集』(版本)所収『小町業平歌問答下』の
紹介と翻刻

吉海直人

同志社女子大学・表象文化学部・日本語日本文学科・特任教授

A Bibliographical Introduction to
“*Komachi Narihira Utamondo*”

YOSHIKAI Naoto

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Culture and Representation,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Special appointment professor

【要旨】

『小町業平歌問答』に関しては、これまで三点の新出写本を紹介した(吉海「新出『小町業平歌問答』二点の翻刻と紹介」同志社女子大学日本語日本文学18・平成18年6月、同「『小町業平歌問答』続考―新出『歌品問答』の紹介」同志社女子大学院文学研究科紀要11・平成23年3月)。またその元と考えられる『四十二の物あらそひ』の新出写本も紹介した(吉海「新出写本『四十二の物あらそひ』の紹介と翻刻」同志社女子大学総合文化研究所紀要29・平成24年3月)。今回は同志社女子大学図書館に所蔵されている版本『小町歌集』所収の『小町業平歌問答』を紹介することにする。

【紹介】

一、絵入版本の所在

『小町業平歌問答』の唯一の版本として、近世前期刊『小町歌集』絵入版本の後半(下巻)に付載されているものがある。版本ということとで伝本も多いはずだが、「国書総目録」には、

国会(鶯宿雑記三九二)・宮書・秋田(東山)・高知・旧浅野

の五本の写本が掲載されているだけであった。これを「古典籍総合目録」で調べてみたところ、

国文研(初雁)・青森(工藤)

とあり、二箇所在所蔵されていることが追加されていた。さらに国文学研究資料館のマイクログ目録を見ると、

版本七本(今治河野・西尾岩瀬・青森工藤・名古屋舞鶴・神宮文庫(二点)・秋田時雨)

とあった。おそらくこれ以外にも未紹介の伝本(個人蔵)が少なから

ず存しているはずである(古書目録にも時々掲載されている)。

版本は上下二冊であるが、『小町業平歌問答』が『小町歌集』(上巻)から切り離され、下巻だけ単独で出回っているものもある。そのため内題に「小町業平歌問答下」とあるからといって、それを単純に二冊本の下巻(上巻欠)と考えるのは早計のようである。柱にも「小町下」とあるので、いかにも『小町業平歌問答』の上巻が存するように思えるが、それはあくまで『小町歌集』の下巻に相当するという意味であつて、『小町業平歌問答』の上巻が存するわけではない。第一、『小町業平歌問答』は下巻だけで作品として完結しており、内容的にも上巻の存在は不必要であることがわかる。要するに上巻が『小町歌集』であつて、下巻が『小町業平歌問答』なのである。

二、同志社女子大学図書館蔵版本の紹介

『小町歌集』所収の版本については、既に石川透氏が『小町業平歌問答』の伝本について(『古典資料研究』9・平成16年6月)において、御架蔵の絵入版本(二点)の存在を紹介されている。しかしその翻刻は今のところ見当たらないようなので、翻刻を付けることにした。かつて前田善子著『小野小町』(三省堂・昭和18年1月)に翻刻されたものは、「絵入板本系の写本」とのことである。ついでながら版本『小町歌集』は新編国歌大観に掲載されているが、『小町業平歌問答』の方はきれいに削除されている。

ここで同志社女子大学図書館に所蔵されている版本の簡単な書誌を紹介しておきたい。書名は中央の刷題簽に「小町歌集上(下)」とある(ただし秩には「小野小町家集上・下」とある)。表紙は黒に近い紺色。金銀泥で草花が描かれている。恐らく特注の表紙であろう。冊数は二冊。丁数は上巻が二十四丁(ただし二十四丁目は裏表紙の見返しになっている)、下巻が十三丁。半丁分を占める師宣風の挿絵が上

巻に六図・下巻に四図含まれる。サイズは半紙本でタテ22.4センチ×ヨコ16センチ。一面八行書きになっている。上下巻とも冒頭と末尾に「阿波国文庫」の蔵書印その他が押されている。図書館の整理番号は「J11.138/09374/1②」である。刊年の記載はないが、江戸前期頃と思われる。ただし本書は後刷りのようである。

なお挿絵は和歌の意味を絵にしたものが一般的であるが、付載の挿絵に合う歌を特定するのは容易ではなかった。ルビは私に施した。

【翻刻】

小町業平歌問答下

在原の業平をのゝ小町に尋ていはく春のあしたと秋のゆふ部は
いつれ
小まちこたふ

あまの原長閑にかすむあしたより風の身にしむあきのゆふぐれ(一)
なりひらとふうくひすのはつ音と(一才)ねさめのほとつき
すといつれ

おなじく答ふ

鶯のはつ音よりなをほとつきすねさめこととふ夜半の一こゑ(二)
風になひく柳と露にしほるゝすゝきといつれ

花のさかりのあらし山ともみちうかへる大井河といつれ
大井河もみちなかるゝ秋よりもあらしの山の花のおもかけ(四)
さくらかりと野あそひといつれ

さくらかり心のまよふみやまより(2才)千種のはなにましろのあ
そひ(五)

ちる花の余波とあり明のわかれといつれ

風にちるはなのわかれにくらふれはさすかつれなき有明の月(六)

しらつゆとやまふきといつれ」(2ウ)

〈挿絵1〉(3オ)

白露のうつろふいろのつらきをもなか／＼いはて山ふきの花(七)

なてしことをみなへしといつれ

女郎花をみなへしそのなにめてゝおもふともなにはゆかりのいもかなてしこ

(八)

くすの青葉あはばと忍ぶ草くさといつれ」(3ウ)

おもへともしのふ心そあはれなるうらみのしけるくすの葉よりも

(九)

月の夜とゆきのあけほのといつれ

わかしやはまれなるゆきの曙あけぼのとあかすのみ見る月のよなく(一〇)

おきのうは葉はの風と松まつの嵐あらしといつれ」(4オ)

松のあらしおきのうは風いかにしてをなしうらみのつれなかるらん

(一一)

雁かりとしも夜のちとりといつれ

風にわたる雲井の雁かりのこゑよりもなをあはれなるともなふちとり

(一二)

たひねのしくれと山ちの入相いりあひといつれ」(4ウ)

道のへの晩鐘いりあひよりもくさまくらなみたをそふるしくれかなしむ

(一三)

かれ野のしもとるほりのおち葉おちばといつれ

あさことにちりしくいほの木のはよりかれ野のにをける草くさのはつしも

(一四)

板屋いたやのあられと草くさの庵いほ」(5オ)の雨あめといつれ

くさの庵いほの雨あめよりなをもいたひさしもらぬあられの袖そでぬらすらむ

(一五)

まれに聞きしかの遠音ととねとまくらにちかきむしの声こゑといつれ

まれきく鹿しかの音ねよりも夜よもすから」(5ウ)

〈挿絵2〉(6オ)

人まつむしそたえぬともなる(一六)

あかつきのきぬたと夜舟よふねこくおといつれ

こかれ行舟ゆきふねのおとよりあかつきのきぬたうつ音ねさひしかりけり

(一七)

あはぬ思おもひとわすらるゝうらみといつれ

あはぬまはたのみもあるにわすらるゝ」(6ウ)うき身をたれになに

とかたらん(一八)

なみたつゝむ思おもひとかよひ路ちをしのふ心こゝろといつれ

袖そでにてもなみたはつゝむ通かよひちを忍しのぶこゝろそやるかたもなき

(一九)(7オ)

なりひらとふまつよひのかねときぬくの鳥とりのこゑといつれ

小町こまちこたふ

きぬくの鳥とりのこゑよりうきはたゝいつわりをきくまつよひのかね

(二〇)(7ウ)

朝あさゆふうちそひなかくあふ事ことなからんとつねにみる事はなくて

稀まれにあはんと何なにれ

まれ「に」あふこひしさよりも浮うき物ものはうちそひなからとけぬ下しもひも

(二一)(8オ)

業わざ平ひら問と思おもふ中なかをわかるゝとにくきにそひはてんといつれ

なからへて思おもはぬ人にそふよりもあかぬ別わかれ恋こゝろはしぬべし(二二)

(8ウ)

〈挿絵3〉(9オ)

たきものゝにほひと琴ことの音ねのきこゆるといつれ

小町こまち答こたふ

空そら焼やもゆかしけれどもことのねのきこゆるかたへひくこゝろかな

(二三)

ゆかしきかたのもの語ことばとむかしをみる夢ゆめといつれ

いにしへゑにのかへる夢よりよそにても」(9ウ) 思ふか中にかたる言の
葉(二四)

かたみとうつり香かといつれ
こたへ

これもその人のかたみとおもへともなをなつかしき袖のうつり香か

(二五)

みめよくてしをなからんと」(10オ) 愛あひはありてみめわるから
んといつれ

うすしほの人にはいかゝそひはてんあひたにあらはみめわるくとも

(二六)

うたよみてものかゝぬとものかきてうたよまぬといつれ」
(10ウ)

はまちとりあとたにあらはわかぬ浦まよはぬ人のこゝろならはや

(二七)

としよりて子なからんとわかき時ひとりあらんとゐつれ」
(11オ)

老おいか身の子のなきよりもわかきときひとりあらむそかなしかるへき

(二八)

あはて思はんとしのふて名のたゝむといつれ
こたふ

思ふにはしのふることそまけにけるあふにしかへはさもあらはあれ

(二九)

契よひり有て宵に」(11ウ) わかれんとちきりはなくて夜もすから
語り明さむといつれ

契り有て宵にはいかゝわかれましうき手枕にかたり明さむ(三〇)

(12オ)

をこなひ人の峯のいほりとうき世をそむくいはやと何れ
世をすつるこゝろはおなしみちなから峯の庵いより谷たにのいはやと

(三一) (12ウ)

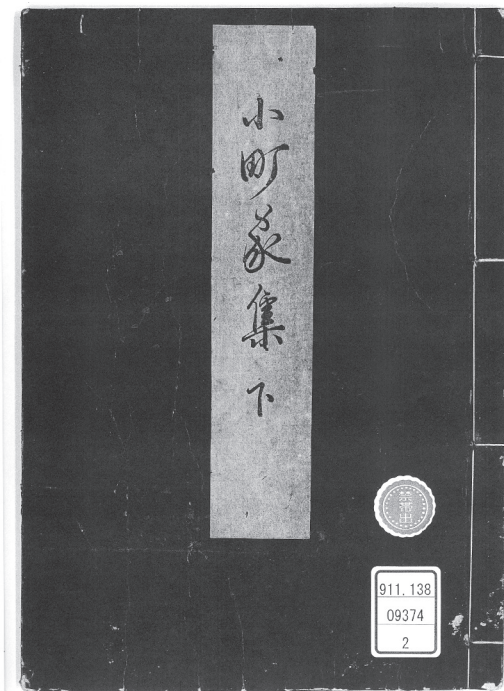
〔挿絵4〕 (13オ)

おもふ人の玉つさとまよふみちのしるへといつれ

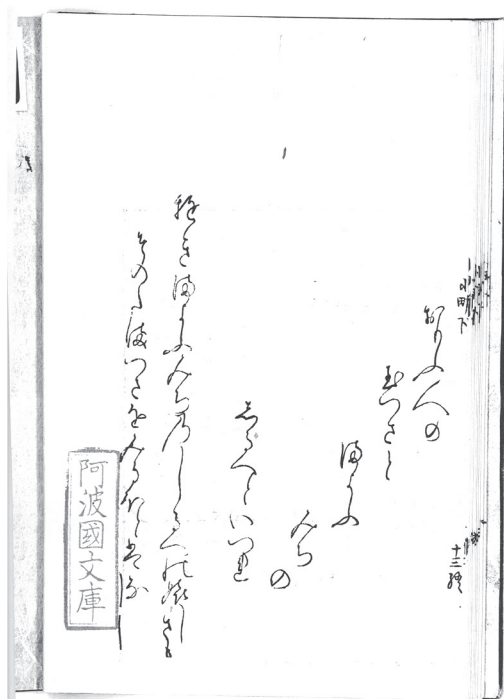
ゆきまよふみちのしるへの嬉しさもそのたまつさをみるほどはなし

(三二) (13ウ)

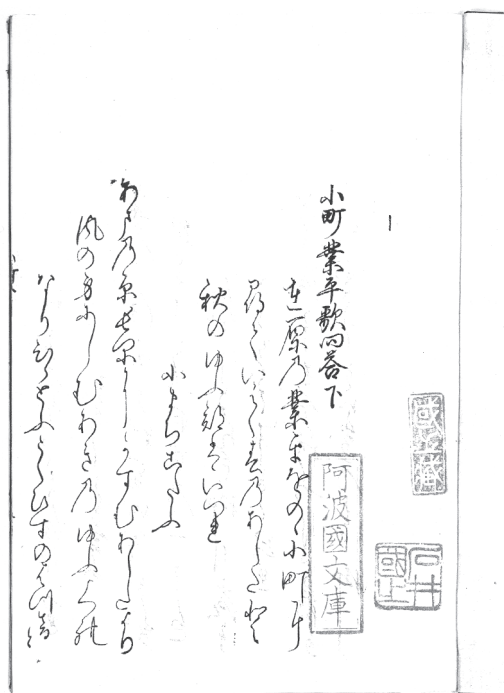
【挿絵】



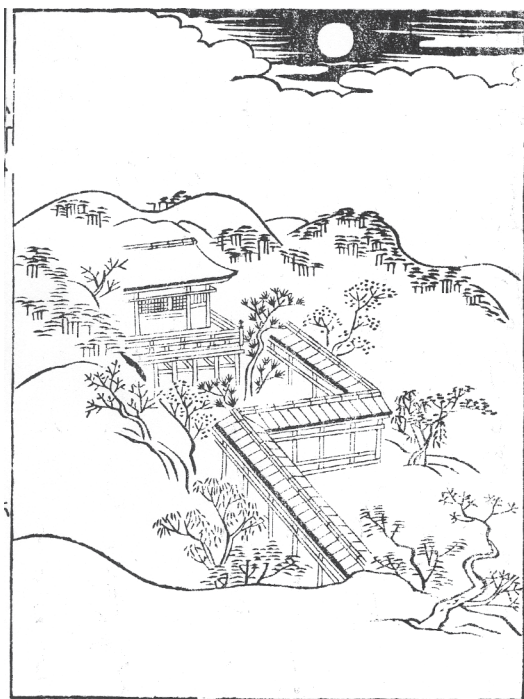
〈図版 1 表紙〉



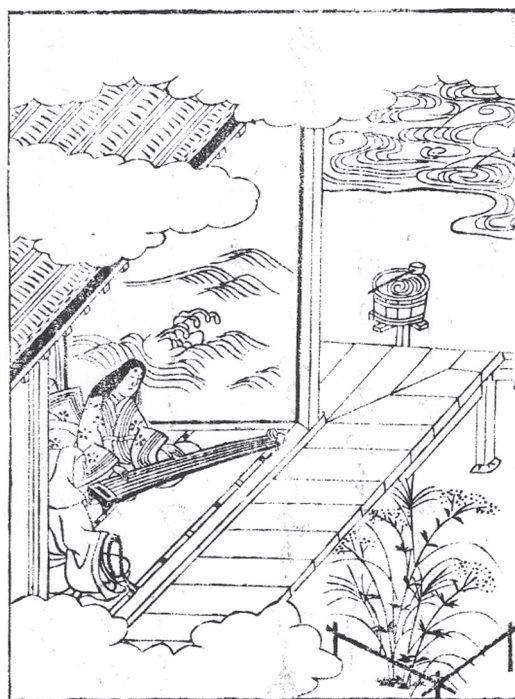
〈図版3 十三丁裏〉



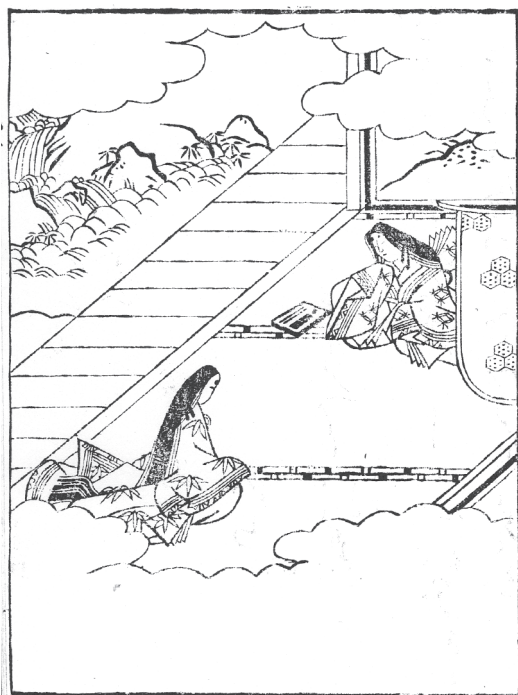
〈図版2 一丁表〉



〈図版5 挿絵2〉



〈図版4 挿絵1〉



〈図版7 挿絵4〉



〈図版6 挿絵3〉